科目ナンバリング U-LAS03 10007 SB48													
授業科目名 * 今訳>						担当者所属 職名·氏名 法学研究科 准教授 須田 守					第四 守		
群	人文・	人文・社会科学科目群 分野(分類) 外国									使用言語 日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	7	授業	形態 潭	文) 智	習(対面授業科目)			
開講年度・ 開講期	2024・後期 曜時限 火3			ζ3	配当		当学年	2 回生	以上 対	付象学生	主 全学向		

[授業の概要・目的]

ある者の権利や利益と、他の者の権利や利益、さらには公益が衝突する場合に、これらを調整することは、法の重要な役割のひとつである。本講義では、アメリカ公法とりわけ表現の自由論を扱った文献を購読し、この調整のあり方を具体的な局面に即して学ぶことを目的とする。法学部生の多くがすでに一定程度親しんでいるであろう憲法の人権論が中心的な素材となるが、特別の前提知識は求めていない。ただし、公法分野に対する興味関心がある者の履修を、とくに歓迎する。

[到達目標]

- ・外国語の専門書を適切に読解し、これを的確に和訳したり説明したりするための思考力や表現力を身につける。
- ・外国の法制度や法理論を学び、日本法とくらべることを通じて、比較法に親しむ。

[授業計画と内容]

Mark Tushnet, Advanced Introduction to Freedom of Expression, 2018から、

第1章 (Basic concepts) 及び第4章 (Rights versus rights/rights versus interests) を精読する。

第1回 導入

| 各回の和訳担当者を決める。また、公法系科目や表現の自由論について、この段階で身につけて おいたほうがよい基礎的な知識も伝達する。

第2回~第14回 文献講読

各回の担当者は、事前に和訳を提出することが求められ、これをまとめたものを、予め授業資料として配付する。教室では、まず担当者が自身の和訳内容を報告し、それをもとに、教員と担当者、さらに他の受講生との間で、和訳の正確性や文章の内容理解、日本法との比較といった観点から議論する。

期末試験

論述試験を行う。英文和訳問題と文献の内容に関する説明問題とを出題する。

|第15回 フィードバック

具体的な方法は、別途連絡する。

[履修要件]

|外国文献講読(法・英)は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。

外国文献講読(法・英)II-E1(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験:70%

平常点(担当回での和訳提出の有無・時期・内容、教室での質疑への対応状況を考慮要素とする。 担当回以外では、教室での議論への参加状況を考慮する。):30%

[教科書]

Mark Tushnet Advanced Introduction to Freedom of Expression (Elger, 2018) ISBN:978-1-78643-715-0

授業で扱う部分を電子化し、授業資料として事前に配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

和訳は、日本語の文章として意を尽くしたものとなるよう、努力を怠らないこと。

[その他(オフィスアワー等)]

|和訳のやりとりのため、電子メール(携帯メールは不可)を使えることが望ましい。

この科目は法学部生を対象に開講される科目です。履修人数に余裕があれば、法学部以外の学生も 履修することが可能ですが、法学部事務室で事前申込が必要です。詳細は履修(人数)制限に関す るお知らせで確認してください。